

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	0084		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	及川 栄作					
到達目標						
1. 職業を選択するために企業等の情報を調べ、理解する 2. 職場の実情に触れ、受入機関で与えられた業務の内容を理解し、遂行する。 3. 受入機関の内容や与えられた業務の内容を報告書にまとめ、発表する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	職業を選択するために企業等の情報を調べ、理解することが適切にできる		職業を選択するために企業等の情報を調べ、理解することができる		職業を選択するために企業等の情報を調べ、理解することができない	
評価項目2	職場の実情に触れ、受入機関で与えられた業務の内容を理解し、遂行することが適切にできる		職場の実情に触れ、受入機関で与えられた業務の内容を理解し、遂行することができる		職場の実情に触れ、受入機関で与えられた業務の内容を理解し、遂行することができない	
評価項目3	受入機関の内容や与えられた業務の内容を報告書にまとめ、発表する適切にできる		受入機関の内容や与えられた業務の内容を報告書にまとめ、発表することができる		受入機関の内容や与えられた業務の内容を報告書にまとめ、発表することができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HC) JABEE 環境都市 (H)						
教育方法等						
概要	勉学の意義、社会の要請、最新の技術、自己の社会での責任などを学ぶ。本実習は進学と就職に関連し、コミュニケーション力を身につけることを目的とする。					
授業の進め方・方法	夏期休業中にインターンシップを実施している企業、官庁、公団、教育機関等において、実習を行う。実習期間は、原則として2週間とする。					
注意点	・ 質問がある場合は受入先担当者に問い合わせ、学校への報告、連絡を速やかに行うこと。 ・ 受入先では、一社会人としての自覚を持って行動すること。 ・ インターンシップの経験は、5年生の卒業研究、専攻科の特別研究そして就職活動の貴重な力となる。 ・ 受け入れ機関の選定、及び単位認定にあたっては環境都市工学科教室会議で審議する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	受入機関の選定 (4月～6月)		1. 受入機関の選定 ・ 受入機関は、環境都市工学科教室会議での審議後、決定する。 ・ 選択した受入機関に申し込みする。	
		2週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)		2. 実習の実施 ・ 受入機関で実習を行う。 ・ 日誌をつける。	
		3週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		4週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		5週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		6週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		7週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		8週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
	2ndQ	9週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		10週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		11週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		12週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		13週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		14週	受入機関での実習 (8月～9月の夏期休業期間中)			
		15週	校外実習報告書の作成 (実習終了後)		3. 校外実習報告書の作成 ・ 校外実習の内容について、報告書を作成する。	
		16週	校外実習報告会 (10月)		4. 校外実習報告会	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

専門的能力	専門的能力 の実質化	インターン シップ	インターン シップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	3	
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	3	
				企業における社会的責任を理解できる。	3	
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	3	
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	3	
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	3	
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0